

平成29年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

評価計画						自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策		
校訓	教育目標	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値	評価値	達成指数	評価	結果と課題	評価		委員からの意見等	
I きびしく自らを律し	1 基本的な生活習慣の確立と、自主・自律の人格育成	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両道を実現させる	朝の立ち番による挨拶・遅刻予防指導、頭髪・服装指導、登下校の交通マナー指導等を通して、規則正しい生活習慣及び校則を遵守する精神を育成する。	生徒指導	服装・頭髪・挨拶の指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.4	3.2	94.1	B	服装・頭髪の指導については計画的に取り組むことができたが、名札の徹底について課題を残した。挨拶については学年進行で上級生ほど挨拶がよくなっていると思われる。	B	最近他校も挨拶がよくなっており、安高は以前ほどのパワーがないように感じる。	生徒会による主体的な挨拶運動の展開を促し、向上を図りたい。	
			交通安全の向上と事故防止に努めていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.3	3.1	95	B	交通安全委員会での街頭指導を実施した。自転車の軽微な事故や違反は数件発生しており、終礼や集会を利用して交通法規遵守と事故防止を呼びかけた。	B	雨天時の合羽の着用が徹底されていた。自転車市内は道幅が狭く街灯が多いため、交通安全に十分注意させてほしい。	B	大きな事故や違反はないが、自転車の鍵かけとともに、委員会活動で取り組みたい。		
			生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を通して、諸行事において達成感を抱かせる。	生徒指導	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	91.3	B	生徒会活動が活性化されており、着飾り祭や文化祭が充実したものになっただけでなく、執行部や委員会活動も活発になっている。	B	着飾り祭の体育祭には生徒の活気と力強さがある。応援合戦やロードレースのボランティア等を通して保護者も子どもの様子を見ることができている。	B	生徒会執行部が主体性を持って生徒全体を引っ張っていく力を見せた。企画段階から生徒の意見集約に努めるとともに、保護者への周知を図ってほしい。
			携帯電話・スマホ・インターネットなどの使用について、学習する機会を計画的に設ける。	生徒指導	一年生対象の情報モラル教室の開催	2回	2回	100	A	専門家を招いた複数回の講演会を開いた。ただ、講話の内容が生徒の心にもっと響くものであるとよかった。校内でのスマホの不正使用が10件程度あった。	A	スマホの所有の低年齢化はあるが、SNS対応等、今後も指導をお願いしたい。	A	入学予定者説明会で直接保護者に理解を求めるとともに、各学期の終業式やHRの機会を利用して継続的に指導できるように取り組む。講話の内容についても講師との打ち合わせを十分にしたい。
	2 自ら学ぶ態度の育成と、学習指導の充実・強化	保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	スクールカウンセラー事業、生徒支援組織の運営を通して生徒個々に応じた支援を行う。	保健相談	保健室での相談・手当・休養が健康の保持増進に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.2	3.2	100.6	A	早期に担任やSCにつなぐことで、重度にならずに済んだ例もあった。生徒サポート委員会だけでなく、ケース会議的な情報交換も行き、教職員間での共通理解を図った。	A	生徒の支援に関する情報を、困っている生徒や保護者に適切かつ地道に提供してほしい。	A	メンバーを絞ったケース会議を適宜行う等、困っている生徒の早期発見と対応に努めたい。
			学習記録帳を活用した日々の指導を継続的に実施し、3点固定(起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻)を定着させる。	教務	12月の学習時間調査の結果から1週間の学習時間が1200分を超える割合(生徒)	40%	27%	67.5	C	基本的な生活習慣の確立が家庭学習の習慣づけや、授業に対する主体的な取り組みを促すと考え、「3点固定」を年間を通じて訴え、生活時間調査を行ってきた。	B	小中学校で宿題を自分でやらない子どもが多い。親もそのことに気付いておらず、学力向上につなげていない。小中との連携も進めてほしい。	B	学習時間だけでなく生活時間を記録させ分析することで、生徒により具体的なアドバイスができるように工夫するとともに、学力向上につなげてほしい。小中との連携も進めてほしい。
			授業を充実させるとともに生徒に自学自習力を付けさせ、確かな学力を獲得させる	教務	定期試験・課題テスト、学習時間調査の結果を教科主任会で共有するとともに、部顧問を含め全教職員間で課題や成果を共有する。	3.5	3.0	84.3	B	生活時間調査については共有ができていた。校務支援システムによる成績のチェックも可能だが、小テスト等を含めて部顧問との情報共有をより充実させたい。	B	課題の量や課題テストの日程の調整など、教科間や部顧問で意識して取り組んでほしい。	B	校務支援システムの活用に加え、部顧問と担任、教科担任の個別の情報共有を図るよう成績会議等で強調してほしい。
	3 ハイレベルの文武両道。目標高く邁進する生徒と教師	生徒の基本的な生活習慣を定着させ、自主性、社会性を強化し、人格形成に資する文武両道を実現させる	各種行事を成功させるため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を支援する	生徒指導	生徒の主体的な活動を支援していると感じている評価値(生徒・保護者)	3.8	3.5	92.1	B	生徒会執行部や各種委員会を中心に生徒が主体的に取り組む、すべての行事において盛り上がりを見せた。	B	文化祭の新たな取り組み等、生徒が主体的に活動しており、今後も支援してほしい。	B	生徒中心の活動を尊重し、生徒が見通しを持って、短期間でしっかり準備できるように指導したい。
			生徒が学習と諸活動との両立ができるよう、教科担任や部顧問、生徒会顧問との連携を密にする。	生徒指導	文武両道を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	90.6	B	学習への取り組みに不満を感じている保護者の意見もあり、両立にむけ、生徒指導部が「センター」となって部顧問と担任などの連携を図る必要がある。	B	部活動の強化は中学生へのアピール力が大きい。中学校との連携等で早くから勉強との両立の大切さを伝えるようにしてほしい。	B	生徒指導部として、各顧問や各学級担任にすることなく、極端な差異や行き過ぎがないように図ってほしい。
			部活動加入率を向上させ、地域と連携した活動と上位大会出場を推進する	生徒指導	部活動に加入している割合(生徒)	95%	93%	97.5	B	全体的に見ても高い数値であるが、部員数が少なく活動の継続が難しい部や新チームの団体戦に参加できない部も出てきている。	B	部活動は学校の魅力アップに大切である。外部指導者を継続的に活用するとともに、中学校や地域とのつながりを意識した活動をするを求めたい。	B	生徒数減少の中で多くの部活動を維持する。外部指導者を継続的に活用するとともに、中学校や地域とのつながりを意識した活動をするを求めたい。
上位大会出場数(男女)(全国総体・国体・全国選抜)			15	12	80	B	強化指定競技では安定した結果を残した。新聞・囲碁・写真・弦楽等の文化系の部が全国大会に出場した。中国大会には吹奏楽部等も出場した。	B	成果を効果的に広報する必要があるのではないかと、ホームページでの結果速報がもう少し頻繁であるとよい。	B	大会成績をHPIに迅速にアップできるように顧問との連携を深めたい。学校紹介ビデオで部活動紹介編も作ったので中学生にアピールしたい。			
4 学校全体が動くキャリア教育と、その成果としての進路希望実現	保護者、地域、大学等との連携によりキャリア教育を充実させる	人権意識を基盤とした個に応じた進路保障を推進する	進路指導	個々に応じた進路指導がされていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.1	89.9	B	補習の在り方を工夫し、生徒が達成感をもてるよう取り組んだ。3年生に対してきめ細かな指導ができたが、1、2年生への情報提供に課題を残した。	B	面接や小論文指導等、放課後遅くまできめ細かな指導に取り組んでもらっている。ホームページ等でも進路情報や取り組みの発信をしてほしい。	B	学年主任及び学年進路担当を中心に、進路意識や学習意欲を向上させるための働きかけを計画的に行う。保護者面談で各担任が直接説明できるような資料を作っていく。	
		総合的な学習の時間を活用し、上級学校訪問、職業人講話をはじめとする体験活動を積極的に実施する。	進路指導	キャリア教育が進路決定や文理選択に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.1	89.7	B	県内外の大学・専門学校の見学、職業人講話など、訪問先や講師について生徒の意識の高揚につながるよう計画した。	B	職業人講話は生徒にとってとても刺激を得られるよい取り組みである。卒業生や保護者などの外部人材を積極的に活用して、生徒の進路意識を高めてほしい。	B	「明日しま」等の県の事業を有効に活用しながら、生徒の地域産業への理解を進めるとともに、より広い視野と信念をもった進路目標を設定させる。	
		公開授業(互見授業)や授業自見、生徒による授業アンケートを実施し、自己研鑽する機会を設ける。	教務	2学期授業アンケートの評価値(生徒)	3.5	3.6	101.4	A	年々評価が向上している傾向があり、教員の授業力向上に向けた努力が窺われる。互見授業がやや形骸化する向きもあり、参観する教員が減少した。	A	生徒の評価からもわかるように本校の教員のレベルは高い。地域にもっとアピールするべき。	A	授業をつくりあげるには教師と生徒であるということを確認し、アンケートの有効利用につなげる。互見授業の取り組みを充実させ、授業改善を行う。	
5 生徒の学力向上と教員の指導力・授業力向上	各教科、分掌との連携により基本的な学習習慣を定着させる	生徒の学力向上のために、各学年の進路目標に向けた課題と改善策について教職員間で共有し、進路検討会や模試分析会を活性化させる。	進路指導	安心して進路目標に挑戦できる学力と向上心を醸成していると感じている評価値(教員)	3.5	3.2	90.6	B	適切な時期に検討会を行い、生徒へのフィードバックも適切に行った。模試の分析を校内LANを活用して行ったが、直接的な情報提供に課題があった。	B	生徒が多様化しているため担任だけでなく指導が大変だと思う。教職員全員で目標あわせをしたうえで指導を期待する。	B	進路希望調査を取りまとめた面談の資料としたり、模試や学力テストの分析を適宜行い、保護者面談での配布できるような資料を作る。	

II  
目標と信念を高く持ち

美しくⅢ  
豊かに美しく  
生きる

6	確たる人権尊重の意識を持ち、自らを大切にし他者を思いやる心の育成	自他を尊重する生徒の育成「美しい人間性・人間関係の形成」	生徒一人一人が自己肯定感を持って学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を持ち、適切な指導・助言を行う。	人・同教推	人権を尊重する意識を育てる指導が適切に行われていると感じている評価値(生徒・保護者)	3.5	3.2	90.9	B	キャリア教育、道徳教育、人権・同和教育の一体的な指導計画により、日常的に取り組んだ。その趣旨が浸透するようさらに取り組みたい。	B	人権意識は人間関係の根本である。部活動や授業での教員の発言は子どもに大きな影響を与えるので、全教職員で共通認識をもってほしい。	キャリア教育、道徳教育との関係性を教職員がより理解しつつ、学校全体で人権を尊重できるよう教員研修に努める。	
		生徒、教職員の人権意識を高め、地域との連携を深める	人権・同和教育に関するLHRと校内研修を開催し、個々が自分の在り方を振り返る機会を設ける。		学校活動で人権を意識して行動する場面があったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.3	95.1	B	発達障がいや有する生徒の具体的な支援についての校内研修や外部講師による研修会を実施し、教員の資質向上に努めることができた。	B	発達障害を有する生徒に対して適切な対応をもらった。今後も様々な課題を抱える生徒がいると思うのでよろしくお祈りする。	学年部や保健・教育相談部等と連携して計画的に研修を実施していく。	
			地域の実態を理解するために、小・中学校、行政を含む地域社会との情報交換、交流に努める。		小中学校や地域での勉強会、地域交流に参加した教員数。	30名	15名	50	C	全ての教科において市内の中高連携を進める会を開催した。参加者を増やし、当事者意識を強めていきたい。	C	幼小中高を通したキャリア教育が求められる。安来市との連携を進めてほしい。	教科ごとの中高連携の拡大を図りつつ、安来市教育委員会と連携した「教育の魅力化」ができるようにしたい。	
7	開かれた学校づくりと家庭及び地域連携	開かれた学校づくりに向けた広報活動の充実	学校案内やホームページ、県外でのPR活動等、広報活動を充実させる。	総務	HPの月の更新数	15	10	66.7	C	トピックスについては計画通り実行したが、部活動の大会結果の報告やブログの更新が進まないことがあった。保護者から更新が遅いという意見が複数あった。	C	安高新聞等、読み応えのある記事があっただけで、HPによる発信を楽しみにしている保護者や地域の人が多いので、継続的に取り組んでほしい。また、学校紹介のビデオはとも良い出来映えで、中学生の間でもイメージがよい。	部活動の大会結果のアップに時間がかかっている。部活動の顧問に強力に情報発信を求めていく。学校紹介ビデオを活用したPRに努める。	
					本校からの文書連絡は、保護者に届いていると感じている評価値(保護者)	3.5	3.4	97.1	B	ピンク色の紙に印刷し、保護者が確認できるように努めているが、保護者の評価が徐々に下がっている。	B	ピンク紙での配布は効果的である。	メールは緊急時を想定しており、ホームページにはPRの役割がある。今後も文書のわかりやすさ、適切な時期の発行に努めていく。	
					奨学金制度の情報提供が適切に行なわれていると感じている評価値(保護者)	3.5	3.1	88.3	B	学生支援機構以外の奨学金の情報提供も確実に実施した。ただ、どうしても3年生向けが中心になるので、1、2年生の保護者からの評価は低くなりがちである。	B	給付奨学金の新設等、制度が年々改定されるので、周知をしっかりとお願いしたい。	連絡が確実に伝わるように広報及び説明会を行う。ホームページも活用する。	
		PTA・中の海会・その他諸団体との連携による学校教育に対する信頼の醸成	他の分掌と連携し、保護者が参加しやすい研修会・講演会を計画し、案内する。		PTA総会の出席率(保護者)	25%	16%	64	C	総会の前に授業参観の機会を設けたり、総会後に出身別PTAを設定したりしたが、出席率は例年並みであった。	B	課題ではあるが、学校に対する安心、信頼感の裏返しとも考えられる。出身中別PTAを同時開催することは継続してほしい。何かイベントがあると子どもを見に来る保護者が増えるのでは。	B	今年度のやり方を続けてみて、保護者にPRしていく。同時に開催できるマネプランの説明会等も検討する。
					PTA清掃ボランティアの総参加者数(生徒・保護者・教員ほか)及びロードレース大会ボランティア参加者数(保護者)	100名	105名	105	A	清掃ボランティアは雨模様だったが、予定通り実施できた。予備日も設定した。ロードレース大会には保護者の横のつながりで大勢の参加をいただいた。	A	平日に行われるロードレースのボランティアに多数の保護者が参加するのは素晴らしい。このようなイベントで子どもの姿を見たいと思っている保護者が多い。	A	PTA役員と相談しながら草刈りが実施できるようにする。ロードレースでのボランティア(豚汁炊き出し、観察・給水所補助役員)への参加も呼びかけていく。
8	豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	保健活動・生徒支援組織の運営を適切に行い、生徒の健康な心身を育成する	朝の健康観察に基づく欠席者集計や保健室利用による生徒の状況把握と教職員への情報提供を徹底する。	保健相談	健康診断・治療報告や保健室での相談、健康の保持増進に役立ったと感じている評価値(生徒)	3.5	3.2	92	A	計画通り実施できている。年度後半は「保健だより」による情報発信・啓発も積極的に行った。	A	安高の子は、明るくて元気なのが魅力。元気な安高生であるためによくお願いしたい。	保健だよりなどの情報発信を継続する。生徒が不登校になってしまう前に取り組めることを行っていく。	
		図書館利用のための広報活動の強化	全教職員の協力を得て、広報紙(ブックレビュー)を作成する。	図書情報	生徒の読書活動を活性化することができていると感じている評価値(教員)	3.5	3.1	87.1	B	広報紙「ブックレビュー」、企画「ブックトーク」「学級文庫」、参加型行事「ビブリオバトル」を実施した。	B	ビブリオバトルの中国大会での好結果などを広報して、生徒の読書意欲を喚起してほしい。	ブックレビューやブックトーク、学級文庫、ビブリオバトル等に生徒が自主的に活動するよう働きかける。	
		校舎と校地の安全・安心な環境づくり	日常の点検や学期末点検により危険箇所把握し、早急に修繕を行う他、学校行事等に合わせ計画的に環境整備を行う。	事務	人身事故発生件数(生徒・保護者・教員)	0件	0件	100	A	学校設備が原因の人身事故は発生していない。安全点検結果を受けての修繕は、危険度の高いものから順に行うとともに、全般的な修繕を関係各所と調整しながら計画的に行っている。	A	老朽化は避けられないが、安全点検はしっかりと行い、事故の未然防止に努めてほしい。	点検等により危険箇所の把握に努め、迅速な対応をする。計画的な修繕を年々しっかりと行い、事故の未然防止に努め、環境改善を図っていく。必要に応じて関係機関に要望していく。	